

環境まづくり 会報

編集・発行/入間市環境まちづくり会議

ごみ減量の具体的な 施策を検討

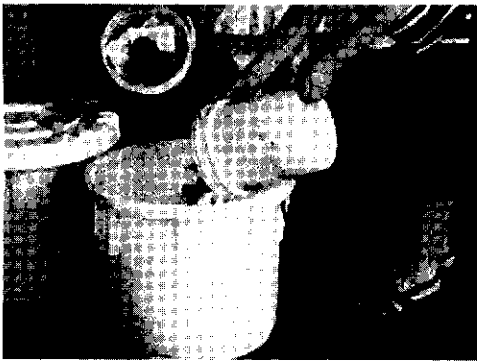
みんなの「ごみ部会」

「みんなのごみ部会」の8月、9月は、ごみ減量活動について、部会員個々の取り組みと、「狭山市の家庭系生ごみリサイクル事業」や「入間台自治会におけるごみ処理問題」、「ごみ処理の先進自治体横須賀市の見学」が報告・検討された。

報告のなかで、ごみ処理の先進地と言われる横須賀市では、最終処分場が満杯となるという危機感からごみ減量活動が始まり、26%の減量を行い、現在、生ごみのガス化を推進中で、ごみの有効利用を目指している。

狭山市の家庭系生ごみリサイクル事業は、平成14年250世帯で始まった生ごみの堆肥化リサイクルに現在3,400世帯が参加していて、大きくその輪が広がっている。将来、市では6,000世帯を目標に推進しているようだ。

このように、ごみ減量と有効利用の活動は、全国各地で具体的な施策が推進されているように、「みんなのごみ部会」もこれらを踏まえ、ごみ減量の具体的な施策を見い出す方向で検討に入る。



▲臭いが出にくい抗酸化溶液配合の小さい専用バケツで回収 (狭山市)

地球環境は地域が救う

環境保全とまちづくりグループ

生涯学習フェスティバル

「第10回いるま生涯学習フェスティバル」が11月28日(日)午前10時30分から午後3時30分にかけて、産業文化センター1他で開催される。今回は、全体で130を超える各分野で活動する市民団体などが参加し、九つのテーマが企画され、環境まちづくり会議は「環境保全とまちづくり」をテーマとしたグループに所属し活動することになった。

このグループには15の市民団体などが参加し、「守ろう宇宙船地球号」地球環境は地域が救う」をタイトルとし、各参加団体の活動紹介やクイズラリーと、狭山市の家庭から出る生ごみリサイクル活動を推進した方の講演などをイベント内容とした。

▼ごみ分別の啓発ボックス



第10回いるま生涯学習フェスティバル
守ろう宇宙船地球号
地球環境は地域が救う
できることから始めよう ごみ問題
～生ごみリサイクル教室～

250世帯から3,400世帯へ
家庭から出る生ごみ処理の地域活動から、市全体へ広がりを現
せている狭山市の生ごみリサイクル事業を推進してきて一主眼
の瞬間を撮ろう。

講師：大友先生さん (狭山市水産在任)
狭山市ごみ減量をすすめる会
講師：入間市、入間市教育委員会、狭山市環境協会、
いるま生涯学習フェスティバル実行委員会
主 催：いるま生涯学習フェスティバル実行委員会
問い合わせ：いるま生涯学習フェスティバル事務局
電話：04-2964-1111 (内線4123)
※お申し込み、お問い合わせは上記事務局まで、なお、当日参加も可です。

と き：平成16年11月28日(日)
午前11時から午後3時30分
と ころ：入間市産業文化センター 3階小ホール

▲環境保全とまちづくりグループ用のチラシ

第3回環境ウォーキング

11月20日(土)開催 五感を使って環境チェック



環境まちづくり会議主催の、第3回環境ウォーキングが開催されます。今回も昨年同様5コースにわかれ、五感を使って環境チェックをしながら、ゴールの愛宕公園を目指します。

秋の入間の自然や景観と芋煮が、環境まちづくり会議の会員はもちろん、他の多くの皆様の参加をお待ちしています。

コース①不老川上流コース (5.5km)

老人福祉センターやまゆり荘 → 大森調節池 → 健康福祉センター → 花みずき通り → ゴール

②入間川・霞川下流コース (5km)

武道館 → 鍵山浄水場 → 笹井ダム → 合流地点 → 河原町 → ゴール

③霞川上流コース (5.5km)

農村環境改善センター → 霞川沿い → ゴール

④不老川下流まちなかコース (4km)

藤沢公民館 → 明ノ沢橋周辺 → 大橋下流 → 彩の森入間公園 → 東町小学校 → ゴール

⑤加治丘陵コース (5.5km)

文化創造アトリエ「アミーゴ」 → 八津池 → 東金子小学校 → 青少年活動センター → 牛沢 → 高倉 → ゴール

申込み・問合せ／

入間市環境まちづくり会議事務局
市役所環境課 TEL2964-1111
(内1243)



環境マネジメントシステムを導入

安川電機

人間事業所では1998年8月に国際規格ISO14001にもとづく「環境マネジメントシステム」を導入し認証を取得しました。地球環境問題、リサイクル等、幅広い視野に立ち、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいます。

ISO14001

ISO14001とは、国際標準化機構(ISO)が取り決めている環境関連規格14000シリーズの一つで、環境マネジメントシステムの国際規格として1996年に策定された。

これは、事業体が生産、サービス、経営を行うにあたって、環境対応の立案、運用、点検、見直しなどの環境管理、監査システムが整備されているかどうかを認証機関が審査し、その基準がクリアした事業所に発行される。入間市役所も取得している。

また、当社の主力製品でありますモータや制御装置についても、「運転時間を節約する」「高効率ドライブを使う」「効率よく使う」、など電力応用製品を中心に省エネルギー・環境保全に貢献したいと考えています。



特集 環境教育・環境学習推進法の成立

持続可能な循環社会の基盤「ひと」を育てる

NPO法人の提案から国の法律が成立

私たちが目指す社会は、「環境」「経済」「人間・社会」のバランスが取れた持続可能な循環社会で、その社会の基盤となる「ひと」を育てる環境教育・環境学習は、最も基本的かつ重要な問題である。

私たちは、私たち一人ひとりが環境問題を認識し、すべての生命の生存基盤である自然環境

が「自然環境にかたよっている」「努力項目が多く実効性が定かでない」「成立後の周知が遅れている」などを上げている。

が、私たちに与える計り知れない恵みを理解し、自然環境を大切に思う心を育てることが重要である。環境教育・環境学習推進法は、このような課題を、社会全体で有効な環境政策を展開することを目的として成立した。

この法律の成立にイニシアティブをとってきたNPO団体は、この法律に関して、これまでの環境教育では不十分で、もっと組織的、体系的な「持続可能な社会をつくる」という幅広い視点から環境教育を進めていく必要がある、その推進の仕組みである法律が必要と考えていた。

この法律の正式名称は、「環境教育の推進に関する法律」といい、平成15年7月に成立した。その過程は、NPO法人環境文明21(元環境庁地球環境部長、加藤三郎代表)が法律の骨子案を作成し、「環境教育・環境学習推進法をつくろう!推進協議会」(元環境庁長官、愛知和男会長)を立ち上げ、各方面に働きかけをした。そして、15年4月に各国会議員に要望書を提出し、同5月与党三党案と民主党案のすりあわせをへたのち、7月国会でスピード成立した。

その一つが、環境教育の明確な定義がされていない点。たとえば、環境教育とは、現在、国際的にも求められている「環境の持続性、社会や経済の持続性の教育」という表現ではなく、「環境の保全に関する教育」という限定的な表現となっている点である。また、この法律全体が「自然環境にかたよっている」「努力項目が多く実効性が定かでない」「成立後の周知が遅れている」などを上げている。



▲環境教育は自然のなかでの体験が重要

会員の声

伝えたいこと

子どもの頃、学校から帰るとすぐ外に飛び出し、友だちと土や水にふれ、風や香りで季節を感じ、生き物とたわむれ、そこには様々な音と風景が広がっていました。家に帰る時に夕焼けを見て美しいと思ひ、夜になればお月さまの位置や形などを確認して、旬の食材で作られた夕食を家族で食べて、安心した気持ちで一日が終わりました。それは日々のあたりまえの暮らしの中で感動と不安を感じ、季節行事などの晴れの日などからも自然環境と人間の営みをこく自然に学ぶことができました。こ

これは、自然が豊かな場所ではなく都会のことでした。ところが今の大半の子どもたちが太陽がどちらの方角に沈むことすら答えられないそうです。

生き物は自らの生命を伝えていくことをDNAに刻まれているといわれています。それは生き物として営みを行える環境を継承していくことが必要ということを意味します。私たちが地球上で生きていくには人間本位に考えていけばいいのでしょうか。私たちはその生命を失うまで体感、実感を持って地球で生きていくことを学習し続けることを感じます。そして今の人間市には自ら学習できる場があることを、子どもたちに伝えたいと思います。

春日町 岡野こずえ

愛犬ベルとの朝の散歩

毎朝、薄暗い内に起きて我が家の愛犬ベル（ゴールデンリト

リーパー2才 オス）と散歩に出かける。近くの「彩の森公園」まで約5分、まだ人通りのない公園をゴミを拾いながら一周するのが日課となっている。たまに会う人もみんな顔馴染みだ。公園の散歩が終わり朝日が射すころ帰宅する。毎年健康診断で減量するように指摘されていたが、2年前に我が家にベルがやってきてからの散歩のおかげで体重を5kgほど減量するのに成功した。ベルは私に「健康」をもたらしてくれた。

公園を散歩して気がついたことは何とんでも多いのがタバコの吸殻、ビニール袋、ペットボトル、空缶など。タバコの吸殻は多いときは1日に80本ほど拾ったことがある。タバコの吸殻は雨に濡れるとフィルターを残して溶けてしまい、めぐりめぐって川や海の汚染の原因となる。海岸に打ち寄せられたゴミのうち一番多いのはタバコの吸殻だそうだ。タバコの吸殻は捨



▲公園は誰のもの ある土曜日の朝の風景

てる人もゴミという意識がないのかもしれない、ついポイと捨ててしまうのであろうか。土曜日の朝は特にゴミが多い、花の金曜日の名残か、ワンカツプの飲み残し、缶ビールの空缶、つまみの袋、ペットボトル等拾い切れないほどゴミがあることがある。夏は花火の残骸が目立つ。

我が家の愛犬ベルはゴミ拾いの名犬、ゴミを発見すると私の制止を振り切つてゴミに飛びつく、そのほとんどがペットボトルか空缶。教えたわけではなく自然にそんな行動をとるようになった。最初のころは拾ったペットボトルや空缶などを口にくわえたまま帰宅した。最近では公園の管理事務所のゴミ箱の前で拾ったペットボトルや空缶を取り上げたなら、それが習慣になつたのか管理事務所の前に来るとポイと吐き出し、家まで持つて帰ることがなくなった。人間がゴミを捨て、犬がゴミを拾う、この不思議な関係がいつまでも続かないで欲しいと願うのは私だけではないはずだ。

扇台 本多 進

しんまい主婦の日記



編・集・後・記

雨が続いた10月、気が付けばめっきり秋ですね。秋といえば、人間の大きなお祭り「入間万燈まつり」皆さん遊びに行かれましたか？二日間のうちかならず雨に降られるといういわく（う）つきの祭りですが、今年は何体のため一週間早まったおかげか、雨は降りませんでしたね。今年（も、かなう）異常気象といわれています。カラ梅雨だったり、猛暑だったり、秋雨は長引いて…これも環境破壊が関係しているのでしょうか？一人ひとりが少しでもできることをして、地球を守りたいですね。と言うわけで、まずは11月20日の環境ウォーキングでお会いしましょう!!

（二ノ宮）

入間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課
住所：〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号
TEL：04-2964-1111(内線1241,1243)
FAX：04-2965-0232
E-mail：kankyo@city.iruma.saitama.jp



100 この広報紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。